



「エージェンシー」の正体

忘れられない光景。算数の授業を終えた2年生の子供たちが、「校長先生、明日の算数が楽しみで今日は眠れない。」と駆け寄って来たことがありました。教員になってから初めて耳にしたかもしれない、「授業が楽しみで眠れない」という言葉。嬉しさや感動というよりも先に、子供たちから発せられたその言葉に驚いたというのが正直な気持ちでした。

どんな授業をすれば、子供たちはそう思うのでしょうか。次の授業を待ち遠しくさせ、子供たちをワクワクさせた先生の言葉は、どのようなものだったのでしょうか。

今年度、群馬県教育ビジョン（第4期群馬県教育振興基本計画）が示され、その中で『エージェンシー』を発揮する子供の姿を引き出して欲しいという県教育長のメッセージが出されました。4月当初、この「エージェンシー」という言葉をめぐっては、「これは一体何なのか」という素朴な疑問に始まり、何をどうすればよいのか学校が戸惑っている様子を感じていました。一方で、「本校で目指していることは群馬県教育ビジョンと同じ方向を向いているのか」、「『エージェンシー』を発揮するための授業の在り方はどのようなものか」など、群馬県教育ビジョンの実現に向けて、学校が真正面から受け止めてくれている実感もありました。6月頃になると、ある学校では、校内研修で『エージェンシー』を発揮する子供の姿の共通理解を図ったり、またある学校では、「自律した学習者」の育成を図るために、「対話・交流」「試行錯誤」「自己決定」という視点で授業研究を始め

たりするなど、学校の取組が手に取るように伝わってきて、多くの学校が主体的に動き出していることに感銘を受けました。

「エージェンシー」の正体は、一人一人の子供が潜在的にもっている「学びに向かう力」であり、『エージェンシー』を発揮している子供の姿は、「各学校が目指している児童生徒の姿そのもの」とであると私は思っています。

「子供が生き生き学ぶ授業をしたい」「子供がもっている力を学校行事で思い切り発揮させたい」等の思いはすべて、子供一人一人の幸せを願う思いからきているものであり、これまでも目指してきていることです。「エージェンシー」という言葉は、「不易」と「流行」で言えば「流行」と言えるかもしれませんが、その中身は極めて「不易」なものであり、子供の成長を支える基本的な力であるといえます。「エージェンシー」という言葉に触れることで、もう一度そのことに立ち返り、各学校が目指す児童生徒の姿を全職員で再認識していくための一つのきっかけになったのではないかと考えています。

今回で4回目となる群馬県教育ビジョンですが、これほどまでに注目され、これほどまでに早く浸透が図られていったことはなかったように思います。ひとえに、西部管内の各学校の取組に感謝を申し上げます。そして冒頭で述べたような、明日の授業を楽しみにする児童生徒の姿がたくさん見られることを願っております。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

※各事業の研究内容等は、下記リンクよりHPにて御覧ください。

・各教科等授業改善プロジェクト

【理科】高崎市立金古南小学校、並榎中学校

【音楽】安中市立磯部小学校

【技術（プログラミング）】藤岡市立西中学校



地域とともにある学校づくりに向けて

2024年3月に策定された「群馬県教育ビジョン(第4期教育振興基本計画)」では、「地域とともにある学校」・「学校とともにある地域づくり」に向けた取組の重要性が示され、西部教育事務所においても、学校・家庭・地域が一体となり、よりよい学校づくり、よりよい家庭・地域づくりを目指し、一年間取り組んできました。管内各地で取り組まれている様々な活動の中から、いくつか厳選してご紹介いたします。

地域課題解決に向け地域の方と中学生が座談会！

〔高崎市立寺尾中学校〕

学校教育目標である「自ら考え課題を解決し心豊かで社会に貢献できる生徒」の育成を図りたいという思いを学校と地域が共有し、その取組の中で地域課題について考える座談会を地区の公民館とともに開催しました。

その座談会では、地域の大人と生徒たちが、地域課題解決に向け真剣に言葉を交わしながら、様々な解決策を練りました。そして地域を舞台に生徒が企画した活動を実現させるなど、社会とのつながりの中で様々な学びを得ることができました。また、その活動の中で、普段の授業では見ることができないような生徒の姿を見ることができ、教師以外の大人との交流が、確かに子供の力になるということを感じることができました。



小学生と地域の方々が一緒に 新たな形の鼓笛隊！

〔神流町立万場小学校〕

昨年度万場小学校では、児童数の減少に伴う次年度以降の鼓笛隊の存続が課題でした。5年生は「やり方は少し変わっても、どうしてもやりたい。」という思いが強く、それを聞いた3、4年生は「来年できるように協力する」と言ってくれました。

子供たちの思いを中心に学校運営協議会では、保護者や地域の方々、教職員それぞれの思いを大切に熟議を重ねられました。その結果、「中学生や地域の人に主旋律となる鍵盤ハーモニカで協力してもらう」、「校歌と無理なくできる1曲にする」等、持続可能な鼓笛隊として存続することになりました。

今年度、神流町合同運動会では、6年生を主役とした、地域とつくる新しい形の鼓笛隊としてスタートを切ることができました。



学校と地域をつなぐ人材が学校に常駐！

〔南牧村立なんもく学園〕

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を図るためのキーパーソンである地域学校協働活動推進員。南牧村立なんもく学園は、その推進員が校内に常駐し、先生方とコミュニケーションを密にとりながら、地域人材を学校へつなぐ役割を担っています。

また、「子供たちと一緒に音楽イベントをしたい！」という地域の声を学校につなぎ、学校を会場として外国の民族楽器に触れる音楽イベントを開催しました。子供たちはプロのミュージシャンと一緒に演奏するという貴重な体験ができ、地域の方もプロの演奏を楽しみながら、子供たちとともに素敵な時間を過ごすことができました。まさに「地域とともにある学校づくり」・「学校とともにある地域づくり」の理想的な取組となりました。

地域学校協働活動推進員さん

子供たちとともに地域も元気になるようなお手伝いができればと思っています！



コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進は、学習指導要領に示されている「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」という理念を学校と社会とが共有するために必要不可欠です。学校と社会の連携及び協働によりその実現を図っていく「社会に開かれた教育課程の実現」に向け、次年度も管内各市町村教育委員会及び各学校に寄り添いながら、きめ細やかな支援を提供してまいります。